

安全データシート

改訂日: 2022年9月5日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

よう化カリウム
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
HC0024

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分2B
生殖毒性: 区分2
特定標的臓器毒性: 区分1(甲状腺/皮膚/全身毒性)
(反復ばく露)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
長期にわたるまたは反復暴露による甲状腺/皮膚/全身臓器の障害

注意書き

【安全対策】
取扱後は手/眼をよく洗うこと。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
適切な個人用保護具を使用すること。
粉じん/ヒューム/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
【応急措置】
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

化学物質
よう化カリウム
ヨードカリウム
KI
CAS RN: 7681-11-0
よう化カリウム 99%以上
(1)-439
HSコード: 2827.60

4. 応急措置

吸入した場合
皮膚に付着した場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師に連絡すること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

飲み込んだ場合

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
データなし。
不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

特有の消火方法

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 適切な個人用保護具を着用する。 環境中に放出してはならない。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材		
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い		『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 取り扱い後はよく手と眼を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器を遮光し、乾燥した涼しい場所で密閉して保管する。 施錠して保管すること。 ガラス、ポリエチレン
技術的対策(局所排気、全体換気等)		
安全取扱い注意事項		
接触回避 衛生対策		
保管		
安全な保管条件		
安全な容器包装材料		
8. 暴露防止及び保護措置		
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)		
管理濃度		未設定
日本産衛学会		未設定
ACGIH		TWA 0.01ppm(インハラブル粒子及び蒸気)
設備対策		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具		
呼吸用保護具		適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具		適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具		適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具		適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
物理状態		結晶
色		白色。空気に触れるとよう素を遊離して黄色に変わる。
臭い		無臭
融点/凝固点		680℃
沸点又は初留点及び沸点範囲		1330℃
燃焼性		該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界		該当情報なし。
引火点		該当情報なし。
自然発火温度		該当情報なし。
分解温度		該当情報なし。
pH		6.0～8.0(JIS規格値)
動粘性率(粘度)		該当情報なし。
溶解度		148g/100g(25℃)
n-オクタノール/水分配係数		該当情報なし。
蒸気圧		1mmHg(745℃)
密度及び/又は相対密度		3.12g/cm ³ (20℃)
相対ガス密度		該当情報なし。
蒸発速度		該当情報なし。
10. 安定性及び反応性		
反応性、化学的安定性		常温では安定であるが、わずかに潮解性がある。 空気に触れるとよう素を遊離して黄色に変わる。 水分があると分解が早い。 強酸、酸化剤によりよう素を析出する。 強還元剤、強酸、鉄、アルミニウム、アルカリ金属等と反応する。 直射日光、高温、湿気 強酸、強酸化剤、強還元剤、鉄、アルミニウム、アルカリ金属等 該当情報なし。
危険有害反応可能性		
避けるべき条件		
混触危険物質		
危険有害な分解生成物		
11. 有害性情報		
急性毒性	経口 :	マウスLDLo値: 1862 mg/kg(PATY (5th, 2001))、ラット: LD50 = 4340 mg/kg(GESTIS (Access on May, 2010))。(GHS分類: データ不足で分類できない。)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		ヨウ素製剤の局所適用により皮膚反応を示した患者にヨウ化カリウムを試験したところ反応が見られなかったとの報告がある(CICAD 72 (2009))。(GHS分類: データがなく分類できない。)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		ウサギの角膜にヨウ化カリウムの3%溶液を適用したところ、僅かな刺激性(only slight reaction)を認めたのみで、刺激の程度の評価は最大100に対し17であった(HSDB (2006))。(GHS分類: 区分2B)

呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器： 皮膚：	データなし。(GHS分類:分類できない) 本物質に関して皮膚感作性の検討は繰り返し行われたが、陽性反応は見られなかったと記載されている(GESTIS (Access on May 2010))。(GHS分類:データ不足で分類できない。)
生殖細胞変異原性		マウスリンパ腫L5178Y細胞を用いた遺伝子突然変異試験およびBalb/c3T3細胞を用いた細胞形質転換試験ではいずれも陰性結果(CICAD 72 (2009))が報告されている。(GHS分類:in vivo試験がなく分類できない。)
発がん性		ACGIHによる発がん性評価において、ヨウ素およびヨウ化物としてA4に分類されている(ACGIH (2008))。なお、ラットに2年間飲水投与した試験で甲状腺の増殖性病変の増加や甲状腺腫瘍の発生は認められなかったが、対照群で観察されなかった唾液腺腫瘍の発生が高用量群で認められている(ACGIH (2008))。(GHS分類:分類できない)
生殖毒性		動物試験では妊娠中のウサギおよびミンクに経口投与により、仔の生存率低下あるいは出生数減少が認められている(CICAD 72 (2009)、HSDB (2006))。ヒトの情報として甲状腺腫を発症した幼児について、母親が妊娠期間中にヨウ化カリウムを摂取していたとする複数の報告(ATSDR (2004)、Birth Defects (3rd, 2000))があり、また、幼児の甲状腺機能低下(ATSDR (2004))も報告されている。(GHS分類:区分2)
特定標的臓器毒性(単回暴露)		経口摂取による自殺企図の報告(CICAD 72 (2009))が1件あるが、症状およびその経過について詳しい記述がない。また、経口摂取により少なくとも2例で一過性の皮膚病変が発症したと報告されているが、他物質との交差反応の可能性が示唆されている(ATSDR (2004))。(GHS分類:データ不足で分類できない。)
特定標的臓器毒性(反復暴露)		露)肺疾患治療の一部として当該物質を含む薬剤の投与を受けていた患者で、顔、頭皮、体幹、腕などに増殖性皮膚病変の発症が見られた複数の事例(ATSDR (2004))があり、また、経口摂取していた患者がヨウ素薬疹を発症した報告(ATSDR (2004))もある。 また、当該物質を含む薬剤を投与された患者に甲状腺肥大や血清中T4濃度の低下とTSH濃度の上昇を伴う甲状腺機能低下が見られ(ATSDR (2004))、一方、甲状腺機能亢進を示す複数の事例(CICAD 72 (2009)、JECFA 24 (1989))もある。 さらに、重大な副作用、あるいは長期の摂取によりヨウ素中毒を起こす可能性が指摘され(医療用医薬品集(2010)、HSDB (2006))、ヨウ素中毒の所見には皮膚と甲状腺に関する症状以外に、眼、口および呼吸器に対する刺激性、喘息、耳下腺炎、胃炎、全身衰弱などが記載され(医療用医薬品集(2010)、HSDB (2006))、また、経口摂取した患者では免疫機能に基づくと見なされている発熱の報告が目立つ(CICAD 72 (2009))。(GHS分類:区分1(甲状腺、皮膚、全身毒性))
誤えん有害性		該当情報なし。
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期： (急性) 長期： (慢性)	該当情報なし。 該当情報なし。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壌中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類:分類できない)
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		—
品名(国連輸送名)		—
国連分類		—
容器等級		—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		—
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[沃化物] 危険性又は有害性を調査すべき物[沃化物] 危険物に該当しない。
消防法		
16. その他の情報		
引用文献		職場のあんぜんサイト(厚労省HP) 16615の化学商品(化学工業日報社)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。